令和５年度神奈川県献血推進協議会議事録

開催日時：令和６年２月５日（月）　午後１時 30 分～３時
開催場所：日本赤十字社神奈川県支部会議室

〔事務局〕
定刻になりました。
本日は本当にこのような天候の中、お集まりいただきありがとうございます。
それでは、令和５年度神奈川県献血推進協議会を開会いたします。
本日、会長の黒岩知事が、所用により欠席でございます。副会長の足立原健康医療局長よりご挨拶を申し上げます。

１　あいさつ
〔足立原局長〕
神奈川県健康医療局長の足立原でございます。日頃から大変お世話になっております。
本来なら、今、事務局が申しました通り、会長の黒岩知事が出席してご挨拶を申し上げるところですが、あいにく事情により、欠席させていただいております。誠に申し訳ございません。
私から代わって、一言ご挨拶を差し上げます。
今日は、今年初めての本格的な雪の中、お集まりいただきありがとうございます。
神奈川県の献血推進協議会ということで、皆様には献血に関して日ごろからさまざまお世話になっております。
実はこれだけ科学技術が進歩した今日でも、これも釈迦に説法ですが、血液だけはまだ造れないということで、献血をしていただかないと需要を満たすことができない、これは非常に科学技術的にも大きな課題ですし、だからこそ、この献血ということを我々は重点的にやっていかなければいけないと考えております。
また、すでにご承知と思いますが、血液製剤等々の医療技術が進歩する中で、献血の必要性というのはますます高まっています。しかしながら、献血人口は総人口が減り、若年層の人口が減っていることもあって、特に献血は可能年齢に上限がありますから、本当は特に協力いただきたい 20 代、30 代の献血者数も残念ながら減っています。
その中で、やはり安定的に血液を確保するためには、特に若い方に献血を何とかご理解いただいて進めなければいけない、このように考えているところでございます。
本日は、連携いただいている日本赤十字社の血液センター様をはじめ、市町村様とも連携してさまざま取り組んでおりますが、今年度は県の医療計画全体ともいえる「神奈川県保健医療計画」の改定の年度でございまして、こうした献血推進に向けた取組に係るパートが含まれておりますので、改正案をお示しし、ご意見を賜りたいと考えております。
また、来年度、令和６年度の、例えば献血の目標や、その目標を達成するための取り組みを位置付けた神奈川県献血推進計画についても、本日はご意見を賜る予定でおります。
限られた時間ではございますが、どうぞ皆さまの忌憚のないご意見をいただきながら、献血事業を進めてまいりたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

〔事務局〕
　委員の皆様のご紹介につきましては、委員名簿と座席表をお配りしておりますので省略させていただきます。なお、出席者名簿の 11 番佐藤委員、16 番中嶋委員については、本日欠席となっております。
　それでは議事に移らせていただきます。議長につきましては、要綱に基づき、足立原副会長にお願いいたします。

２　審議会の公開
〔足立原副会長〕
　本協議会につきましては原則公開とさせていただいており、本日は神奈川県情報公開条例第 5 条において非公開にあたる案件は予定しておりませんので、すべての協議事項について公開とさせていただきたいと存じます。公開にあたっては、会議の冒頭での写真撮影の許可も含まれておりますことをご承知おきください。本日は、傍聴する方、報道機関はいらっしゃらないですね。

〔事務局〕
　おりません。

〔足立原副会長〕
　はい。
　委員の皆様にご相談します。本日の協議会の記録を作成いたしますが、前回同様に議事録の形式は発言内容の要約としてよいでしょうか。特に異論のない方は挙手願います。

　※全委員挙手

〔足立原副会長〕
　それでは議事に入らせていただきます。まず、次第（１）報告事項でございますが、３件ありますので、説明後一括してご意見をいただきたいと思います。事務局から説明をお願いいたします。

３　議事
〔事務局〕
　資料１に基づき、令和５年度の献血の状況についてご報告いたします。
　表１「年度別・種類別献血状況」ですが、献血者数と献血量を令和３年度からお示ししております。
　なお、資料１に記載しております令和５年度の数値は令和５年 12 月末現在のものとなります。
　令和４年度の実績は、前年を上回りましたが、本年度は、前年比の値が令和４年度より下がっております。しかしながら昨年同期である 12 月末の献血者及び献血量は上回っています。
　続きまして、表２です。年度別の献血「目標」及び「実績」を、献血量、献血者数別にお示

ししたものです。

令和３年度は目標を上回り、令和４年度は目標を若干下回りました。しかしながら実績は先ほど申し上げたとおり令和３年度を上回っており、目標が高く設定されたことによると思われます。

今年度は、第３四半期が経過した 12 月末時点で目標達成率は献血者数、献血量ともに 75％以上であり、前年同期より高い数値となっております。

続きまして、表３「年度別・年齢別献血状況」です。献血者の年代を 10 歳ごとに区分し、献血者数とその構成比を令和３年度から示したものです。

令和３年度から５年度のそれぞれの年度の構成比（区分別人数を献血者の合計で割ったもの）をご覧いただきますと、40 代、50 代の方が半数以上を占めており、主な献血者となっていることがお分かりいただけるかと思います。その中でも 40 代が減少し、50 代、60 代が増えており、献血者の高齢化が数字に現れていると思われます。

また、30 代以下の若年層の減少傾向も依然として続いている状況であり、10 代につきましては、献血者人数を人口で割った献血者比が 3.0％と年代別では一番低くなっております。裏面をご覧ください。

裏面には参考に令和５年度 12 月末現在の、市町村ごとの人口や過去の献血実績から設定した、市町村別の採血車による目標と実績を掲載させていただいています。

市町村ごとに達成状況に差はございますが、概ね目標を達成できる状況です。

今後とも一層の啓発を行い、目標達成に努めてまいりたいと考えております。

献血状況につきましては、以上です。

〔事務局〕

ひきつづき、「報告事項イ」の令和５年度献血推進計画における県及び血液センターの取組状況について、説明させていただきます。資料２をご覧ください。

資料につきましては、本年度の献血推進計画と、それに対する県と神奈川県赤十字血液センターの取組状況を実施主体がわかるように対比して作成しております。

「１　献血目標」ですが、右側の「献血状況（令和５年 12 月末現在)」のとおり、

全血献血	63,394Ｌ	（達成率　73.6％）
血小板成分献血	17,132Ｌ	（達成率　79.8％）
血漿成分献血	31,146Ｌ	（達成率　80.5％）

となっております。

２ページをご覧ください。

左側「２　前項の目標を達成するために必要な措置」でございます。（１）献血に関する普及啓発活動の実施として、「ア　若年層に対する普及啓発活動の実施」の（ア）「動画、SNS 等を活用した広報」ですが、神奈川県赤十字血液センターで作成した動画「LIFE　GOES　ON（ライフゴーズオン)」は、献血セミナーなどで、『つなげ、その「ち」からプロジェクト』は俳優の芦田愛菜さんが CM キャラクターとなり、11 月から横浜駅で放映しております。

SNS における情報発信も、X（旧ツイッター）は前年同期間の約４倍投稿するなど、献血者確保につなげています。

左側「(イ)　生徒・学生に対する普及啓発」でございますが、右側「献血セミナー」「高校

献血の実施状況」「高校生への啓発チラシ配布」は資料記載のとおりでございます。「大学連携ポータルサイトを活用した情報発信」として、県は、はたちの献血について情報を発信いたしました。

４ページをご覧ください。

左側「イ　幼少期の子どもとその保護者を対象とした普及啓発活動」の実施としまして、今年度は「mini キッズ献血の実施」がございました。

「ウ　神奈川県学生献血推進連盟との協力活動」では、７つのイベントに、延べ 31 人の学生が活動いたしました。

５ページに移ります。左側「エ　企業等における献血の推進」中の「(ア) 企業・団体に対する取組の推進」でございますが、資料の右側記載のとおりです。

（イ）献血バスにて日程の広報につきましては、各市町村が住民の方に献血バスの情報提供を行っており、相模原市、厚木市、小田原市様は広報誌に配車日程を掲載いただきました。

６ページをご覧ください。

（ウ）の「職員献血の実施」を県では年３回実施し、市区町村でも単独ではありませんが、資料記載のとおり実施し、職員の献血協力を得られました。

左側のオの「複数回献血の推進」について、右側記載の「ラブラッド」ですが、平成 30 年に開始いたしました Web 会員サービスで、令和４年にアプリが導入されました。本県での会員数は 370,381 人、成分献血予約率は 93.6%となっております。

左側「カ　献血推進キャンペーン等の実施」です。(ア)献血推進キャンペーンは年２回実施しており、その下(イ)効果的な広報手段を活用した取組と合わせ、右側、資料記載のとおり様々な広報を行い、普及啓発を実施しております。

７ページに移りまして、(ウ) 献血協力企業・団体への表彰ですが、長年にわたり献血に協力いただいている企業・団体等の表彰を行っています。内容は資料のとおりです。

８ページをお開きください。左側「(２) 献血推進協議会の開催」は、右側に本日の献血推進協議会の開催を記載しています。

（３）献血の推進に際し、考慮すべき事項として、ア～エにつきましては、資料に記載のとおりです。

９ページをご覧ください。左側「オ　献血関係機関会議の開催」につきましては、市町村、血液センター、県における情報共有などを行う神奈川県献血推進連絡会議を今後開催する予定です。

最後になりますが、「３　災害時における血液確保等について」でございますが、(１) 神奈川県地域防災計画に定める措置」に記載のとおり、県と日赤県支部とで「災害用血液製剤の確保に関する協定」を結んでおり、災害時に血液が円滑に供給されるよう連携体制で血液の確保に努めています。なお、令和５年９月５日に血液センターは公益財団法人献血供給事業団による血液製剤搬送訓練を実施しております。

（２）新興・再興感染症蔓延下の対応としまして、資料右側記載のとおり取り組んでおります。

取組状況は以上でございます。

〔事務局〕

続いて報告事項「ウ　第８次神奈川県保健医療計画について」です。

資料３をご覧ください。

保健医療計画とは、「２　計画の性格」に記載のとおり、医療法に基づき策定する法定計画で、県の保健医療システムの目指すべき目標と基本的方向を明らかにするものです。

平成 30 年３月に策定した「第７次神奈川県保健医療計画」の計画期間が令和５年度で満了することから、令和６年度を初年度とする新たな計画を策定することとなりました。第８次計画の策定の趣旨等については、資料に記載のとおりです。

この計画の第８章第６節に「血液確保対策と適正使用対策」が定められていることから、今回の改定内容についてご報告をいたします。

資料をおめくりください。

こちらの資料は、１月 19 日まで実施されていたパブリックコメントに用いられたものとなります。

内容は、第７次計画から概ね変わっておりませんが、現状と課題が別々に分けて記載されていたものを、全体の見やすさを考慮して、セットで記載しています。

現状として、血液製剤の安定的な供給には、献血により得られる血液を十分に確保することが求められていることや、現在は以前より少ない人数で献血量を確保できていますが、献血可能人口の減少が見込まれること、を記載いたしました。

課題には、30 歳代以下の割合が減少していることや、血液製剤の適正使用について、最新の知見に基づき検討する必要を挙げています。

これらについて、図表を加えて視覚的な見やすさを配慮し、図表から読み取った内容を記載するなど、第７次計画と比較すると、より分かりやすさを重視し、見やすくなるよう、改定しております。

また、施策の方向性についても、最終目標を「安定的に必要な量の血液を確保し、安全な血液製剤を必要とされる人に供給できる」とし、対策を記載しております。

第８次保健医療計画は、これから推進会議や審議会等を経て、3 月に策定される予定です。

保健医療計画につきましては、以上となります。

〔足立原副会長〕

ここまでの報告事項３件について、委員の皆様からご意見ご質問等ございましたらよろしくお願いしたいと思います。

〔さとう委員〕

前から気になっていることがありまして、私自身ずっと 16 歳から献血をやって、昨年 162 回目となりましたが、「はたちの献血キャンペーン」を毎年やられていますが、これまでの問題意識でも若年層の献血者数が少ないといったことで、16 歳からは確か 200mL で、17 歳からは 400mL の全血の献血ができると記憶していますが、「はたちの献血キャンペーン」を大々的にやればやるほど献血は 20 歳から、という間違ったメッセージを送ることになるのではないでしょうか。どうなんでしょう。

〔血液センター〕

ご質問いただきました、「はたちの献血キャンペーン」、これはずっと以前から全国展開しているキャンペーンでございます。

若年層を対象としたさまざまなキャンペーンということでやっているものではありますが、確かにご指摘いただいた通り献血が可能となる年齢は、16歳からでございます。

「はたち」という名称を取りやめるという意見も一部上がってはいたのですが、今現在はまだ「はたちの献血キャンペーン」という言い方で継続しているというところでございます。

〔さとう委員〕

別にもう1件、献血推進協議会への出席が初めてで、的外れでしたら申し訳ないのですが、献血協力企業・団体への表彰を行っていますが、確か、献血者個人に対しても、30回献血すると銀色有功章、50回か60回で金色有功章、100回で功労賞という表彰をされていたと思うんですね。

100回以降は、そういうシステムはなくて、もちろん表彰されるために献血をやっているわけではないですが、ある種、そういう表彰はモチベーションにつながっていくのかな、と思っていて。私自身は、160回を超えて、162回になったときに、やりたいと思うし、社会貢献だし、身近でできるボランティアだ、と思っていますが、そうしたものがあるともう少し励みになるのかな、と。

血液も、薬価でいうと、200mlで数万円ということは献血している人たちはかなり知っているし、昔のように金券がもらえる制度はなくなった。それは、法律上とか様々あるから仕方ないですけれども、せめて表彰とかのシステムについては、神奈川県内でも見直していただきたいなと前から思っていたのですが、この点いかがでしょうか。

〔血液センター〕

個人に対する表顕彰制度は今もございまして、簡単なもので言いますと、献血会場ですぐにお渡しできるものとして、10回目、30回目、50回目という形でございます。70回目のときまた100回のときにもお渡しする機会はございまして、200回を超えた場合は、以後100回ごとに感謝状をお渡しする制度は継続しています。

献血会場で、70回の時には、対象となる方へ、表彰を希望されるかどうかお声をかけて、ご希望の場合には、少しお時間をいただきますが、郵送等でお渡しする表彰制度も継続しておりますので、100回を超えたらもう無い、ということではございません。

〔足立原副会長〕

私から質問させてください。議長で恐縮ですけれども、ラブラッドアプリでございます。

資料２の６ページ、ラブラッドのWeb会員数が、令和４年度が32万4,000人、現状では37万人、4万5,000人増えている、これは非常に素晴らしいことだと思います。

成分献血の予約率93.6%というのは、成分献血した人のうち、93.6%がラブラッド会員ということでよろしいでしょうか。確認です。

〔血液センター〕

献血の予約は、ラブラッドの会員でなくても受けられるようになっておりまして、献血者総

数のうち、予約していただいた方が何パーセントかが予約率となります。

〔足立原副会長〕
ラブラッド会員に限らず、予約して来られた方がほとんどだったということですね。

〔血液センター〕
成分献血の場合は、2 週間に 1 度お願いできる献血の種類で、リピートしていただける方が多いため、予約率は非常に高く推移している状況です。

〔足立原副会長〕
ラブラッドの会員数 37 万人の年齢構成率はわかりますでしょうか。
若い人が多いとか中高年が多いなどのデータはありますか。体感でも結構です。

〔血液センター〕
正確な会員の年齢分布は持ち合わせていないのですが、会員になっていただきやすいのは若干年齢が若い方が多いかなと。年齢で言うと 50 代以上のラブラッドがない時代から協力いただいている方は、会員にならなくても今まで通り協力します、という状況があると思います。

〔足立原副会長〕
関連して、先ほどさとう委員にもご意見いただいたとおり、どのように若年層、特に 10 代の方に献血に協力いただくか。決まりがどうなっているかの確認ですが、確かに過去、金券を配った時代もありました。それはいろんな検討の中で無くなったということだと思います。
私は健康医療局長兼未病担当局長で、未病の取組の中で、歩くとポイントがたまって、ポイントを何かと交換できる、ということがありまして、ポイント欲しさに歩くということはあるんですね。このように、お金はあげられなくても、献血を繰り返すとポイントがたまっていく、あるいは、ネットショッピングのようにシルバー会員、ゴールド会員、プラチナ会員、となっていくと割引ができます、というようなことができないかと考えたときに、決まりとして、献血を不当に誘発してしまうからだめ、ということがあるのでしょうか。

〔血液センター〕
赤十字としては、善意で支えていただいている献血ということから、基本的には無償で、というのがベースになりますが、献血に協力いただいたお礼として、ラブラッド会員で献血に協力いただく場合、繰り返し来ていただくと 1 回あたりポイントを付けて、ポイントがたまったら、記念品を差し上げるといった繰り返し来ていただけるような取組を行っています。
また、新しい献血者層の開拓の意味では、アニメや鉄道とタイアップしたキャンペーンを行って、献血のお礼として記念品を差し上げています。

〔足立原副会長〕
ラブラッドがポイント制なのは知っていましたが、記念品を差し上げているのですね。ありがとうございます。

そういったことをどう周知していくかというのもポイントだと思いますね。

〔島本委員〕
公募で委員をやらせていただくことになりました島本と申します。
ちょうど今、ラブラッドの話が出て、私もアプリを入れているんですけれども、私は60代ですが、ラブラッドのアプリは入れやすいということは強調しておきたいと思います。
例えばポイントも、予約すれば3ポイントとか、それとは別に、平日に献血に行くとスタンプを押してくれるなどありますし、20回ぐらい献血した際には記念品をいただきました。そういうことはモチベーションになっているところがあって、本当はボランティアで、厚意で行うことですが、そうしたことをしていただけるのはとてもありがたいです。
献血ルームに行きますと、ドリンクは飲み放題ですし、その時によっては手相を占ってもらえるようなこともあって、それはとても楽しみですし、見ていると、勉強している学生さんもいたぐらいです。
ラブラッドの関係で、少し残念だと思うのは、「おすすめコンテンツ」に「イベントの案内」があるのですが、神奈川県で何かやっているかなと思って見ても、いつも無いのです。もしできればそういった情報も発信していただけると、より嬉しいので、充実してもらえるといいかなと思います。
献血をしてください、というのではなく、アプリを入れるだけでもいいので、と若い方に伝えるのもよいのではないかと思います。アプリには、献血をした方の話や輸血を受けた方の話なども出ているので、そういった活用方法もあるかなと思います。

〔足立原副会長〕
ありがとうございます。ほかに御意見ございますでしょうか。
それでは続きまして（２）協議事項「令和６年度神奈川県献血推進計画（案）」について、事務局から説明をお願いいたします。

〔事務局〕
令和６年度神奈川県献血推進計画（案）でございます。
資料４－１をご覧ください。
この（案）は、国が５年ごとに策定いたします「血液製剤の安全性の向上及び安定供給の確保を図るための基本的な方針」と、国が毎年度策定いたします「献血の推進に関する計画」、これを基に各都道府県が推進計画を立てて行くものです。
お手元に配布いたしました別添の参考資料１　厚生労働省告示第49号の「血液製剤の安全性の向上及び安定供給の確保を図るための基本的な方針」は、５年毎の見直しがされ、平成31年２月28日に告示されたものでございます。
また、参考資料２は「令和６年度の献血の推進に関する計画(案)」であり、３月下旬に告示が予定されております。
これら参考としてお配りしておりますので、後ほどご確認ください。

それでは、令和６年度の神奈川県献血推進計画（案）につきましてご説明したいと思いま

す。資料４－１及び資料４－２をご覧いただきたいと思います。資料４－１は改正点に下線をひいた、令和６年度計画案、資料４－２は新旧対象表となっております。

それでは説明いたします。

計画の構成は大きく

１の献血目標

２前項の目標を確保するために必要な措置

３災害における献血確保等について

となっております。１ページ、１の献血目標でございます。令和６年度の神奈川県の確保目標量は総数 150,146 リットルと定めております。なお、内訳は、全血献血の計は 85,900Ｌ、このうち 200ｍＬ献血が 992Ｌ、400ｍＬ献血が 84,908Ｌ、成分献血の計は 64,246Ｌ、そのうち血小板が 22,656Ｌ、血漿が 41,590Ｌです。右の欄の献血者数はそれぞれの目標量に対する目標となる献血者の人数になります。

なお、資料にはありませんが、昨年度計画と比較しますと、献血量として総数で 3,869Ｌの増、内訳は全血献血で 219Ｌの減、成分献血としましては、血小板で 1,173Ｌの増、血漿で 2,816Ｌの増でございます。献血量と同様に献血者数につきましても、全血献血は減となっておりますが、血漿成分献血が増であるため、全体として 3,869Ｌの増加となっています。

これは、近年赤血球製剤及び血小板製剤の供給量はやや増加傾向、血漿製剤の供給量はほぼ横ばいで推移しています。また、一般用原料血漿から製造する免疫グロブリン製剤の需要増加により、ここ数年で確保目標量が急増しています。そのため、令和６年度以降は確保量の増加傾向が続く見通しとなっています。近年では、赤血球製剤の増加傾向やここ数年で急増した原料血漿確保目標量にけん引され、全体的な必要献血者数も増加傾向が続いています。

次に、２の「前項の目標を確保するために必要な措置」です。

まず、（１）の「献血に関する普及啓発活動の実施」ですが、アの「若年層に対する普及啓発活動の実施」でございます。（ア）動画、ＳＮＳ等を活用した広報ですが、昨年度と同じく「献血はいのちを救う」というメッセージを、若年層が親しみやすい動画やＸ（旧ツイッター）等のＳＮＳを用いて効果的に普及していきたいと考えています。取組内容の変更点はツイッターがＸに名称変更したことによります。

資料４－１の２ページをご覧ください。

（イ）生徒・学生に対する普及啓発でございます。本年度、実施いたしました高校生へのチラシ配布や献血セミナーの実施案内を継続して行います。

イ　幼少期の子どもとその保護者を対象とした普及啓発活動の実施ですが、献血の大切さを子どもの頃から知っていただくことをコンセプトとしている「キッズ献血」を実施し、献血が生活の中に浸透できるよう啓発していきたいと考えております。

また、20 代や 30 代の子育て中などで献血に行きにくいという方に向けて、利便性を向上し、より気軽に来ていただく環境を整えることも重要と考えております。そこで、今年度は新たに、「血液センターは小さな子どもがいても献血に協力したいというニーズにこたえるための事業を実施し、県はそうした取組に協力する」と追加しました。

具体的な取組内容として、現在、川崎ルフロンと海老名献血ルームにおいて実施されている「お子さま見守りサービス」について、実施の拡充や広報を行ってまいります。この取り組みは全国でも５カ所のルームのみで実施されており、そのうち２カ所が神奈川県で行われている

というものです。県も広報など、拡充に向けて協力していきます。

ウ「神奈川県学生献血推進連盟との協力活動」ですが、同世代のボランティアの活動は、若年層に、より身近なメッセージとして感じられると考えますので、育成や組織の継続を行いつつ、取組内容の記載のとおり、協力を図っていきたいと考えています。

続きまして、エ　企業等における献血の推進でございます。

（ア）から（ウ）に記載されておりますとおり、安定的な集団献血の確保に向けて、今後とも一層積極的に血液センター、県、市町村が連携をとり、献血の推進に協力する企業・団体に働きかけ、社会貢献活動としての献血の推進について、啓発を図っていきたいと考えています。

３ページのオの「複数回献血の推進」です。

「ラブラッド」は献血 Web 会員サービスですが、日頃から継続的に献血していただいている方々に対し的確な情報提供を行うとともに、献血予約を行える機能もあるものです。

今後とも積極的に Web 会員の増員を進めるとともに、同一献血者に年間複数回の献血への協力を行うなどの推進を行って参りたいと考えています。

また、今回、新たに複数回献血につながるような取り組みを関係機関と連携し行う、と追加しました。

現在、献血時のサービスとして健診時の血液検査結果がご本人に送られ、日頃の健康管理等に役立てていただいていますが、これらを活用し、関係機関と連携した事業を検討してまいります。

次に、カの「献血推進キャンペーン等の実施」です。（ア）（イ）に記載のとおり、引き続き関係機関との連携を図り、ＳＮＳやホームページ等の様々な広報媒体の活用や各種イベント等を通じ、積極的に実施してまいりたいと考えています。

（ウ）の「献血協力企業・団体への表彰」及び（２）の「献血推進協議会の開催」は、これまでと同様、令和６年度も引き続き実施する予定でございます。

４ページ(３)の「献血の推進に際し、考慮すべき事項」です。アからオに記載のとおり、県、市町村、血液センターがそれぞれ連携し、常に円滑な血液の提供ができるように体制を整備しています。

最後の３の災害時における血液確保等についてです。

（１）「神奈川県地域防災計画に定める措置」は、県と日赤県支部の間で締結しました「災害用血液製剤の確保に関する協定書」に基づき、災害時においては必要な対応を実施して参りたいと考えています。

（２）「新興・再興感染症まん延下の対応」についても、新型コロナは５類感染症となりましたが、引き続き安全・安心な献血環境の保持等を行ってまいります。

以上が、令和６年度の神奈川県献血推進計画（案）です。なお、国の令和６年度の献血の推進に関する計画は、先ほども述べましたとおり３月下旬に告示される予定です。正式に告示された段階で、本県におきます令和６年度の献血推進計画としてご通知を差し上げたいと考えています。

以上です。

〔足立原副会長〕
　ありがとうございます。ただいまの令和６年度神奈川県献血推進計画案につきましてご質問、ご意見等ありましたらよろしくお願いします。

〔楠委員〕
　若年層の話が先ほどから何回か出ていまして、私もいろんな県のご担当の方とやり取りする中で若年層に対してどういう普及啓発をするんですか、と聞くと、ホームページやＳＮＳでの発信というのが決まり文句のようにして、出されます。
　本当に、動画やＳＮＳが若年層に刺さっているかの効果検証ができているのかなというのが正直思うところで、作成して、良いものができても、それを見て刺さらなかったらあまり効果がないのではないかと常々思っています。
　自分の高校生時代を思い返してみたときに、初めて献血した時は、友人がやったことある、今度一緒に行こうよ、と誘われたからであって、クチコミだったり、横のつながりでお友達紹介のような広がりが、今の時代でも一番広がっていくと思います。
　ポイントなどの話が出ましたが、お友達紹介のような、地道に今献血をやっていただいている方からどう広げるかのほうが、若年層の方は入ってきやすいのかなと思ったりするのですが、今行っていることは引き続き行っていただくとして、地道なところで何か行う予定があればお聞きしたいです。

〔事務局〕
　今年度は行っていませんが、過年度に、ＳＮＳを利用したフォトコンテストを日赤が実施してくれました。献血の一場面の写真をＳＮＳにあげていただいて、同年代の方に見ていただいたり、という友達同士などのつながりを活用した事業を行っています。

〔血液センター〕
　今年度実施中の事業として、県内の各高校に、献血協力のチラシを 400mL 献血が可能な３年生を対象として配布しました。短期間で全校に献血バスを配車するのは、台数の関係などもあって難しいので、献血ルームに足を運んで献血に協力いただけるようなチラシを配布して、そのチラシを持って、多くの高校生が献血ルームに来てくれています。
　また、今年、初の試みとして、全国共通で、小学４年生を対象とした献血を啓発する簡単な冊子を作成して配布します。まだ献血できる年齢ではないですが、これから先５年後、10 年後、献血に足を運んでもらえるような啓発も開始しています。
　県内で言いますと、コロナがあってバスの配車が難しかったのですが、世の中が少しずつ戻りつつあり、大学のキャンパスへの配車が受け入れていただけるようになっています。昨年度に比べると、今年度はすでにバス 25 台分多くキャンパスに配車できています。
　そうした取組のほか、献血ルームのＸで、高校生のグループが来てくれた時など、来てくれたきっかけを聞いたり、承諾をもらえれば写真を撮って紹介したりしています。

〔楠委員〕

いろいろな角度から普及啓発していただいていることがわかりました。
献血ルームが発信するよりも、個人でインスタグラムのアカウントを持っている方も多いので、来てくれた方に、よかったら、ご自身のインスタであげてくださいとお願いしたほうが広がると思うので、お声掛けしてもらえると、そういった方からさらに広がると思うので、よろしくお願いします。

〔足立原副会長〕
他にいかがでしょうか。
今、ちょうど広報の話題が出たので、近藤委員、メディアの立場から、効果的な広報、刺さる広報、効果検証について、ご意見あるいはコメントがあればお願いします。

〔近藤委員〕
テレビ神奈川の近藤でございます。当社でもＣＭの放送をしているのですが、ここに載ってなかったのが悲しいなと。年間を通じて、民間放送連盟とともに献血キャンペーンの告知をしています。
当社も最近はＳＮＳを使った広告展開を行っております。Ｘを中心としてインスタグラム、YouTube などやっておりますが、楠先生のおっしゃるように、呼びかけて広げてもらうというのが一番効果的なのかなと。いろいろな献血ルームに呼びかけを掲示して、更なる輪を広げていくというのが非常に効果的なのかなと思います。
色々やるというのは大変ですよね、まずどういうものがバズるのか、なかなか今いる職員だけでは難しいと思いますが、仲間を呼びかけて広げていくというのは効果的だと思います。若い方は色々見ていますので、その点はいかに広げていくかというところに注力していけばよいのかなと思います。
効果検証ですが、それはやはり数字を見ていくしかないのかなと思います。爆発的に伸ばすのであれば、献血マニアの方を通じてという方法があるかもしれませんが、地道に、発信してもらうということが大事かなと思います。
以上です。

〔足立原副会長〕
ありがとうございます。
確かに、発信については、昔と比べて大きく進歩していて、どんどん拡散してくれる、よくも悪くも瞬時に拡散するので、拡散をどう使えるのかということはありますね。
逆に難しいのは、拡散するだけではなく来てくれないといけない、リアルに来て、献血までしてくれるかどうか。ただ、この手前で献血ってあるんだな、と高校生や大学生に献血を知ってもらえるだけでも拡散は大事だと思います。
今はテレビからソーシャルメディアのほうに移っていて、いろいろな〇〇系ユーチューバーがいますが、献血ユーチューバーがいるなら、そういう人をうまく使うとか、献血芸人を作るとか、いろいろ展開はあるかもしれません。
ラブラッドは、全国共通のアプリですが、地域別のカスタマイズがどこまでできるのか、はありますが、住所ごとに、先ほど島本委員が言われたように、神奈川オリジナルの情報を神奈

川に住所のある人にはどんどん送れる、そういったことを地道にやられるのがいいのかなと思いました。

学校の関係ですと、冒頭でさとう委員もおっしゃっていました、本当は高校生から、できれば中学生ぐらいから、早く16歳になって献血したいと思ってもらいたいですが、一方で学校の難しさは、同調圧力になってはいけないということがあります。過去、コロナの時もワクチンを学校でできないか、学校だとみんな打たなくてはいけないとなってしまう、ともめたことがありました。そういった難しさがあると思います。

本日、公立学校の関係の委員は欠席ですので、私学には非常に協力的でバスを呼んでいただいている学校などもありますが、鳥越委員、私学として、学校での献血の推進、現状や課題などコメントいただきたいのですが、いかがでしょうか。

〔鳥越委員〕

私の学校では、献血に関して学校として主体的に取り組むということは特になく、パンフレットなどをいただくことはあります。

話を聞いていて、高校生の献血に向けたインセンティブは何かと考えたときに、献血することによって血液がどのように医療現場で役に立っているか、成分によって保存期間が非常に限られていてかなり循環しないと医療現場に行き届かないということ、実際に廃棄しなくてはならない量はどのくらいあるのか、そういったことを、医療現場の切り口から伝えていただくよう、進路講演会、職場体験的なところに講師派遣していただくのはよいのかなと思ったりしています。

高校では、総合的な探求の時間というのがあり、各学校によっていろいろ策定していく必要がある内容ですが、命、生命、倫理などもテーマとして挙げられると思うので、血液あるいは献血といった切り口から、医療、看護、臍帯血などについてアカデミックとまでは言わないですが、そのような機会に講師を派遣していただくと、間接的ですが生徒たちが献血に動いていくようになるかなと思いました。

〔足立原副会長〕

それでは、大久保委員、よろしくお願いします。

〔大久保委員〕

血液センターの大久保です。いつも献血にご協力いただきまことにありがとうございます。

今のお話ですが、今、何校か私立の高校に職員が行きまして、献血セミナーを実施しています。今、高校はカリキュラムが厳しくて、全部の学生さんを一堂に会してお願いするとなると、4月の時点でカリキュラムを組まないといけないと伺っております。献血セミナーは、クラスごとの保健体育の時間を利用して、クラスごとに1日間、4コマとか5コマで実施するかたちで一昨年ぐらいから始めています。それがもう少し広がっていけばいいなと思っています。

何年か前に台湾の大学に行って話をする機会があり、大学生に、今まで献血したことがある人、と聞いたところ、ほとんどの人が手を挙げたんです。とてもびっくりして、どうしてそんなにみんな献血しているのか質問したところ、小学校の時から、何歳になったら献血するのは

当たり前だという教育ができていた、だからみんなそれが当たり前だと思っていると聞いて、大変驚きました。日本においてはそういう教育がなされていなかったから、高校になって献血できる年齢になって急いで献血セミナーをしていてもなかなか入っていかないのではないかと思っていて、その話を本部にしたところ、今年度から、小学４年生に献血に関する漫画が本部から出されました。

そういうことは時間がたたないと伝わらないことだと思いますが、種をまいていくことが大事だということがやっと始まったところかなと思っております。

私からは以上です。

〔足立原副会長〕

今日ご出席の委員の皆様には一言ずつコメントいただきたいと思うのですが、いかがですか。藤澤委員、様々な角度で関わってらっしゃると思うのですが、若年層の話でも、全般のお話でも結構です。ご意見いただけますでしょうか。

〔藤澤委員〕

いくつか気づいたことをお話しさせていただきたいと思います。

表彰は、表彰状をお渡しするとお聞きしましたけれども、個人的にお渡しするのと、顕彰というかたちで皆さんにお知らせして、素晴らしいですねと言っていただく、その晴れがましい体験というのもやはり重要かなと思われます。特に日本では、陰徳といいますか、いいことをしてもあまり人に知らせないのがよいというようなところがあるのですけれども、献血の推進に当たっては、いいことをしていただいてありがとうございますと皆さんで称えるということがご本人にとっても晴れがましいし、あのようになりたいという子供たち、若年層の啓発にもつながるのではないかと考えますので、顕彰という機会を持たれるとよいと思います。

小学４年生からの啓発冊子については、大谷選手のグローブではないですが、日本全国にまかれても、それをどのように扱われるかによって、ただ児童に配って終わりということになってしまいますと、せっかくのよいものが活用されないという懸念もありますので、長い目で見て活用していただけるように、工夫されるとよいのかなと思います。

冒頭にお話がありましたように、血液は人工的に造れない、長期的に保存できない、だから献血が必要なんです、という２点だけでも繰り返し伝えていく。だったら何をするか。私はボランティア論を大学で担当していますが、献血もボランティアに含まれるんですか、血液ってそうなんですね、そういうことなら、自分も協力してみようという声もよく聞きます。

あとは、献血の機会ですね。ある程度時間がかかりますので、大学に献血バスを配車されるのはとてもよいと思います。機会をどのように設けるかに工夫が必要なのかなと思います。

以上です。

〔足立原副会長〕

ありがとうございました。関口委員と竹田委員からも一言ずついただきたいのですが、企業における献血の推進、献血バス等でご協力いただいている企業もたくさんございますし、若い社員の中にはまだ献血したことがないという人も多いと思います。そういったところを踏まえて、全体的で結構ですので、まず関口委員からコメントいただきたいと思います。

〔関口委員〕
去年の４月からこちらにまいりまして、こういう場が今日初めてで、皆さんのお話を興味深く聞かせていただきました。
私も、30 数年前、会社の中庭に献血車が来て、そこで初めて献血しました。まあいいやと思っていましたら、職場の女性から、「関口君、若いのに行かないの」と言われて行かざるを得ない雰囲気で行きました。
企業としての献血がどのように促進できるか考えてみましたが、先ほど表彰という話がありましたけれども、協力的な企業は何かのかたちで名前が載る、とか、ＳＤＧｓや社会貢献、サステナビリティに貢献する企業のイメージは上がっていくという風潮になっていますので、今まで以上に、そういったネームバリューというのは、企業として感じ入るところがあるのではないかと思います。献血に協力的な企業の順位を発表するとか、逆に悪いところを公表するとか、何らかのインセンティブを企業に与えるというのはひとつあるのかな、と思いました。
以上です。

〔足立原副会長〕
続いて竹田委員、いかがでしょうか。

〔竹田委員〕
昨年９月にこの職になりまして、会議に参加するのも初めてですが、私の出身の組合でいいますと、コロナ前は、献血というと会社の協力のもと職場会議室や献血バスで行ってきました。コロナ以降、職場は、6 割 7 割がリモートワークになっており、そこに献血車が来ていただいても、コロナ前のような献血活動ができない状況です。献血を職場に根付かせてきたつもりですが、コロナ後はなかなか献血活動が出来ない状況にあり、この状況をどうしていくかというのは、自組織の課題でもあり、それを今後どう広げていくかも課題だと思います。
先ほどお聞きすればよかったのですが、資料１について、市区町村別の人数が 100%を超えているところがいくつかありますが、その理由がわかれば教えていただけますでしょうか。

〔血液センター〕
市町村別の目標の数字は、その前の年の実績等を踏まえた、目標全体に対する按分割合で設定しています。令和５年度の目標は、令和４年度の市区町村の実績を、全体を 100 として市町村で何割採血できていたかと同じ割合で設定しています。
学校や企業での実施を増やした、反対に継続が難しいという話をいただいて、昨年は実施できたけれども今年はできなかったという出入りや、年間の予定がほぼ終わったところ、これから実施する予定の会場がある地域という違いもあります。
100%超えているところは、会場を増やした、または協力してくれた人数が多かったということがあると考えられます。

〔足立原副会長〕

最後に太田委員、石田委員に一言いただきたいと思います。
まずは太田委員、病院協会、病院、医療者、医師、いずれの立場でも構いません。一言コメントお願いします。

〔太田委員〕
私はもっぱら血液または血液製剤を使う立場ですので、献血の推進に対しては特別な意見を持ち合わせていないのですけれども、医療従事者というのは、特に看護師などは、献血に対する意識は非常に高い、大好きという方が多いと思います。ただ、医療機関は非常に多忙で、医師にしろ、看護師にしろ、慢性的な人手不足が原因でなかなか余裕がないために、実際に献血に行くことのできる職員は少ないのかなと思います。そのあたりが改善されれば、我々も協力できるのではないかと思います。
本日、献血アプリとか、ＳＮＳを活用した広報とか、興味深く聞いていましたが、着実に効果が上がるように努力していければと思っています。
以上です。

〔足立原副会長〕
最後に石田委員コメントお願いいたします。

〔石田委員〕
私たちライオンズは、採血車を回していただき、献血に長らく協力させていただいています。
クラブごとに活動していますが、事前に献血車がいつ来ますよ、という広報、案内をします。地域によって、単身者や学生が多いところではカップ麺をお土産に配るとか、ここに行くとカレーの材料が揃うとか、各クラブが創意工夫を凝らしたお土産を用意するというようなことをしています。ただ、先ほどからお話のあった若年層というのは、そういったことにはあまり興味がない。
ライオンズクラブは小学校、中学校、大学で薬物乱用防止の教育も行っておりますので、そういった場で、特に小学校、中学校で時間をいただいて献血の話ができないかと委員会で検討したいと考えています。
ライオンズクラブも高齢化しているので、大学生のクラブであるレオクラブのメンバーに、血液の大切さ、血液製剤がないと困るといった話をする、「アンパンマンのエキス」のようなＤＶＤを見てもらう、配布するなどして、若年層を取り入れられるように頑張っていきたいと考えております。これからもよろしくお願いします。

〔足立原副会長〕
ありがとうございました。議題で協議事項でした令和６年度神奈川県献血推進計画案について、各委員からさまざまなコメントをいただきました。ただ、計画自体を変えるべきという意見はございませんでしたので、事務局案をもとに、若年層の話、企業の話、最後に石田委員がおっしゃった高齢者の皆さんとの連携や大学生との連携を含めて運用を工夫していくことで、計画案は事務局案をベースに国の計画の告示を待って策定させていただきたいと思いますが、

いかがでしょうか。御了承であれば挙手をお願いいたします。

※出席委員全員挙手

〔足立原副会長〕
はい、ありがとうございます。では、この協議事項は了承とさせていただきます。
本当にさまざまな御意見をいただきましてありがとうございました。
竹田委員からもお話がありましたけれども、働き方が変わってきましたよね。コロナを踏まえてリモートが当たり前になり、みんなが出勤する日がなかなかない中で、献血車が来る日を出勤する日にしようとか、対面で顔を合わせる日に利用していただくというのも一つの案、と思いました。
試行錯誤があると思いますので、引き続き、さまざま工夫、知恵をいただきながら進めていければと思っております。
他に全体を通してご意見等ございますでしょうか。

〔足立原副会長〕
すべての議事が終了いたしましたので、進行を事務局にお返ししたいと思います。

〔事務局〕
今日はすべての委員からさまざまな角度でご意見いただきました。来年度の献血目標が令和５年度より若干上がるという中で、県と赤十字血液センター、市町村と連携して、今日いただいたご意見を参考にさせていただきながら取り組んでまいりたいと考えております。
本日はありがとうございました。

（以上）